

国道二号線(アンタナナリボ～トアマシナ間)におけるマングル橋及びアンツァパザナ橋改修計画  
(マダガスカル)

大豊建設・鴻池組JV

# 難局乗り越えボトルネック解消

アフリカ南東沖に位置するマダガスカルでは、「アンタナナリボ・トアマシナ間経済都市軸橋梁整備計画」により輸送能力の改善が図られており、日本政府などの協力の下、同国内および周辺国の物流活性化が進められている。

受賞プロジェクトは、アンタナリボ～トアマシナ間に位置する国道2号線上の2橋梁を対

象とするもの。交通のボトルネックとなっていた片側交互通行区間、ムラマンガ西方約17キロ



完成したマングル橋

## 2橋梁整備で輸送機能と安全性向上

マングル橋と同約6キロのアンツァパザナ橋を新設した。

両橋を2車線化することで輸送機能の向上を図るとともに、橋梁利用者の安全性と安心感の向上を目的に整備された。

マングル橋既設橋は鉄道と車道が併用となった橋梁であり、建設後少なくとも50年が経過していた。プロジェクトでは鉄道橋を残し、上流側に3径間連続のプレストレスト・コンクリート(PC)箱桁橋を新設し、基礎は直接基礎とした。上部工の施工方式は移動式型枠(トラベラー)を用いた張出架設工法を採用した。

また、アンツァパザナ橋は単



完成したアンツァパザナ橋

マングル橋の上部工は、張出架設工法で日本の専門業者が施工した



以前のアンツァパザナ橋は片側相互通行の鋼製トラス橋で、老朽化により早期の架け替えが求められていた



径間PC中空床板桁とし、杭基礎は場所打ち杭を採用、オールケーシング工法で施工した。いずれの工法においても同国で施工実績が少なかったため、発注者や同業エンジニアをはじめ、学生や地域住民に至るまで多数の見学者が訪れ、橋梁建設技術への関心の高さが示された。

施工時には、コロナ禍での工事着工やサイクロンによる洪水の影響、さらにはロシアのウクライナ侵攻による輸送の混乱など、さまざまな困難を乗り越える必要があったが、関係者の連携により2024年に無事完了した。

海外建設協会の「第4回OCAJIプロジェクト賞」の受賞9事業を紹介いたします。

### 概要

- ▷実施者＝大豊建設・鴻池組JV
- ▷実施国＝マダガスカル
- ▷実施都市・地区＝アロチャ・マングル県ムラマンガ市
- ▷プロジェクト関係者＝マダガスカル公共事業省(発注者/施主)、長大・建設技研インターナショナルJV(設計者)
- ▷マングル橋の主要諸元＝対象区間「アンタナナリボから94.2キロ」、対象区間延長「700メートル」、橋梁タイプ「コンク

- リート橋」、橋長「102メートル」、上部工形式「3径間連続PC箱桁橋」、下部工形式「逆T式橋台(2基)、壁式橋脚(2基)」
- ▷アンツァパザナ橋の主要諸元＝対象区間「アンタナリボから105.5キロ」、対象区間延長「120メートル」、橋梁タイプ「コンクリート橋」、橋長「30メートル」、上部工形式「単純PC中空床板橋」、下部工形式「逆T式橋台(2基)、橋脚なし」
- ▷実施期間＝2021年8月～24年1月

